

松山大学大学院 医療薬学研究科

医療薬学専攻（4年制博士課程）





医療薬学の学識を深め、実践的な研究能力を備えた医療薬学研究者、高い専門性を有し指導的・先導的役割を担う薬剤師を養成します。

理念と目標

本学は、「真実」、「実用」、「忠実」の「校訓三実」を教育理念として掲げ、四国随一の規模を誇る私立総合大学です。また、本学は、地域社会の健康と福祉に貢献できる薬剤師の育成を目的とした愛媛県で唯一の薬学部を有しております。

松山大学大学院医療薬学研究科博士課程(4年制)では、高度な専門性をもって患者に最適の薬物治療を提供できる人材、薬物を適正に使用する上で生じる問題を科学的・社会的に解決できる人材、さらに薬学研究者の視点から病態や薬物作用機序の解明に取り組む人材の育成を目的としています。

特色

本研究科では、「一般コース」と「がん医療重点コース」が設置されています。これら2つのコースでは、下の図にある2つの教育研究領域(最適治療と実践薬学領域もしくは疾病と薬の分子基盤領域)で実施される専門科目および特別研修(学内研修もしくは病院研修)から自分の目標にあった科目と研修を選択して単位を修得することができます。

一般コース・がん医療重点コース

最適治療と実践薬学領域

患者の立場から医療を考える

天然物医薬品評価科学

病院薬剤学 臨床薬理学 医療倫理学
環境衛生薬学 医療マネジメント 製剤設計学
がん医療薬学* 腫瘍学*

科学英語特論

専門科目

疾病と薬の分子基盤領域

薬と病因・病態の解析から医療を支える

感染症薬学

分子神経科学
薬物作用解析学
医薬分子化学
医療分析化学
分子生命科学

特別研修

学内研修

領域内の各専門分野で順次研修を実施。最新の研究に幅広く触れ、医療の現場で遭遇する様々な課題を解決する上で必要な知識や研究手法を修得。

病院研修*

愛媛大学医学部附属病院薬剤部を拠点として実施**。チーム医療を積極的に推進する能力や高度な学識をもとにした臨床現場における高い実践力を養う。

*がん医療重点コース必修

**愛媛大学との包括的連携協定による

薬学特別研究

学位論文の作成・発表

博士(薬学)の学位取得

入学資格 (薬剤師資格を有する)

- 6年制薬学部卒業者
- 大学院博士前期課程もしくは修士課程修了者
- 修士の学位を有する者と同等以上の学力を有する者(出願資格審査あり)

修了後の想定される進路

- 総合病院において、高度な専門的知識・技量を備えて先端医療を担う薬剤師
- 地域の医療機関において、指導的・先導的役割を担う薬剤師
- 医療・食品行政における技官や専門職
- 製薬企業等における医薬品開発担当者
- 医療系大学教員、研究者

4年間通して行われる「薬学特別研究」では、自分の関心のある研究テーマに取り組むことにより、自ら問題を発見して解決する実践的能力を身に付けながら、学位論文の作成を目指します。

なお、がん医療重点コースは、中国・四国地域の医療系大学院との連携(がんプロ養成コンソーシアム)のもとに設置したコースです。「がん医療薬学」および「腫瘍学」等を履修し、がんに焦点を合わせた「特別研修(病院研修)」やがんに関する高度な専門性を修得することができます。

このような教育課程を通じて、臨床、行政、製薬企業等の最前線で専門的能力・技量を発揮して医療に貢献できる人材、薬学教育において指導的・先導的役割を担う薬剤師や大学教員の育成を行います。

社会人大学院生へのいざない

博士号(Ph.D.)の取得は患者利益に繋がります。

松山大学大学院医療薬学研究科では医療現場で活躍している薬剤師が、在職のまま博士号の取得を目指す社会人大学院生の入学に広く門戸を開いています。薬学部を卒業し医療人として活躍する薬剤師は、医療現場において患者の薬物治療に際して多くの問題に直面します。このような問題を解決すれば、患者の利益になります。そのためには、薬学部就学中に培った問題解決能力をスキルアップする必要があります。大学院では、研究課題について調査し、課題を実験的・科学的に解決し、その成果を公表して社会に還元することで、自立して問題を解決する能力を獲得できます。大学院でこのような能力を獲得できたと判断された場合、博士号(Ph.D.)が授与されます。博士号(Ph.D.)を取得する事は、問題を見出し、その問題を科学的に解決できる研究者であることの証明となり、これは世界的にも通用する共通の証明書なのです。薬剤師として医療現場で患者の問題を見出した時、大学院で問題解決能力を得ていれば、問題を科学的に解決し、その成果を社会に還元する事で、患者の利益が向上します。その成果が、多くの医療現場で利用されれば、同じ問題で困っている患者を救う事になり、多くの患者の利益ばかりでなく、国民の健康、さらに社会の利益にも繋がります。一方、医療現場では学位を持って指導的立場に立つ人材が求められおり、博士号の取得はキャリアアップに繋がります。松山大学大学院医療薬学研究科で問題解決能力を獲得し、患者の利益向上に貢献したいと願う薬剤師を期待します。

社会人大学院生の履修方法

- 働きながら学位取得を目指したい方に、長期履修制度や昼夜開講制を導入。
- 旧4年制薬学部卒業者も出願可能(資格審査有り)。

社会人学生の履修方法については、入学した大学院生の状況に応じて、指導教員を中心とした助言をもとに、柔軟な履修計画を立てます。

1. 昼夜開講制：柔軟な教育研究体制を整備

職業につきながら大学院で学ぶ社会人大学院生に、昼夜開講制を導入し、平日夜間授業、土曜日授業、集中講義などを組み合わせた柔軟な教育研究体制を整え、履修および単位修得の利便を図ります。

2. 長期履修制度：働きながら無理のない履修計画が可能

時間的制約の多い社会人が、個人の事情に応じて柔軟に標準修業年限を超えて学び、仕事に従事しながら学位を取得することが可能になります。この制度は本人の申請に基づいて審査し、長期履修をあらかじめ認め計画的に課程を修了するものです。

初年度納付金

入学検定料	入学金		在学科	実験実習費
	本学部出身者	学外出身者		
¥30,000	¥72,000	¥126,000	¥700,000	¥200,000

※学費援助制度として、各種奨学金制度(松山大学奨学金)が利用できます。

アクセスマップ



松山大学 薬学部棟